メキシコにおける新自由主義と貧困問題

外国語学部イスパニア語学科 3 年　島田宏美

1980 年代以降、メキシコは新自由主義的政策を推し進めてきた。1982 年以前のメキシコでは国内産業を手厚く保護する輸入代替工業化政策がとられていたのだが、1982 年に政権についたデラマドリ大統領（Miguel de la Madrid Hurtado）が新自由主義的政策への転換を図り、非石油産業の活性化と貿易の自由化を目指した。また次に政権についたサリナス大統領（Carlos Salinas Gortari）もデラマドリの方針を受け継いで新自由主義政策を進めた。こうしてメキシコでは新自由主義的政策が進められたのだが、それを更に決定的なものにしたのが 1994 年 1 月 1 日に発効した北米自由貿易協定（North America Free Trade Agreement、以下 NAFTA）であった。NAFTA 発効によって、メキシコの新自由主義的政策改革は一つの山場を迎える事となる。

新自由主義的政策によって、メキシコにとってプラスの影響が無かった訳ではない。例えばメキシコは貿易の拡大を達成した。ちょうどメキシコが新自由主義的政策を推し進め始めた 1980 年代以降から諸外国との貿易額は順調に伸びていったのである。とりわけ NAFTA 後の貿易量の拡大はめざましく、1986 年から 1996 までの 10 年間に輸出総額は４倍にまで膨れ上がった。また、貿易拡大と同時に GDP も伸びていき NAFTA 発行から 7 年が過ぎる頃にはメキシコの GDP は世界第 9 位となった。これらのデータだけを見ていると、新自由主義的政策はメキシコに大きな恩恵をもたらしたように見えるかもしれない。しかし実際には、新自由主義的政策を行ってきた事により、経済成長と同時に貧困問題が拡大するという矛盾が生じた。本稿では、80 年代以降の新自由主義的政策によってメキシコ経済がどのような影響を受けたのかを明らかにしたい。輝かしい経済成長の恩恵を受ける事ができず、今尚厳しい生活を送る貧困層に焦点をあて、新自由主義的政策が本当にメキシコ社会を豊かにしたのか否かを考察したい。

【主要参考文献】

1. 西島章次・細野昭雄編著『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004 年
2. 田島陽一『グローバリズムとリージョナリズムの相克―メキシコの開発戦略―』晃洋書房、2006 年